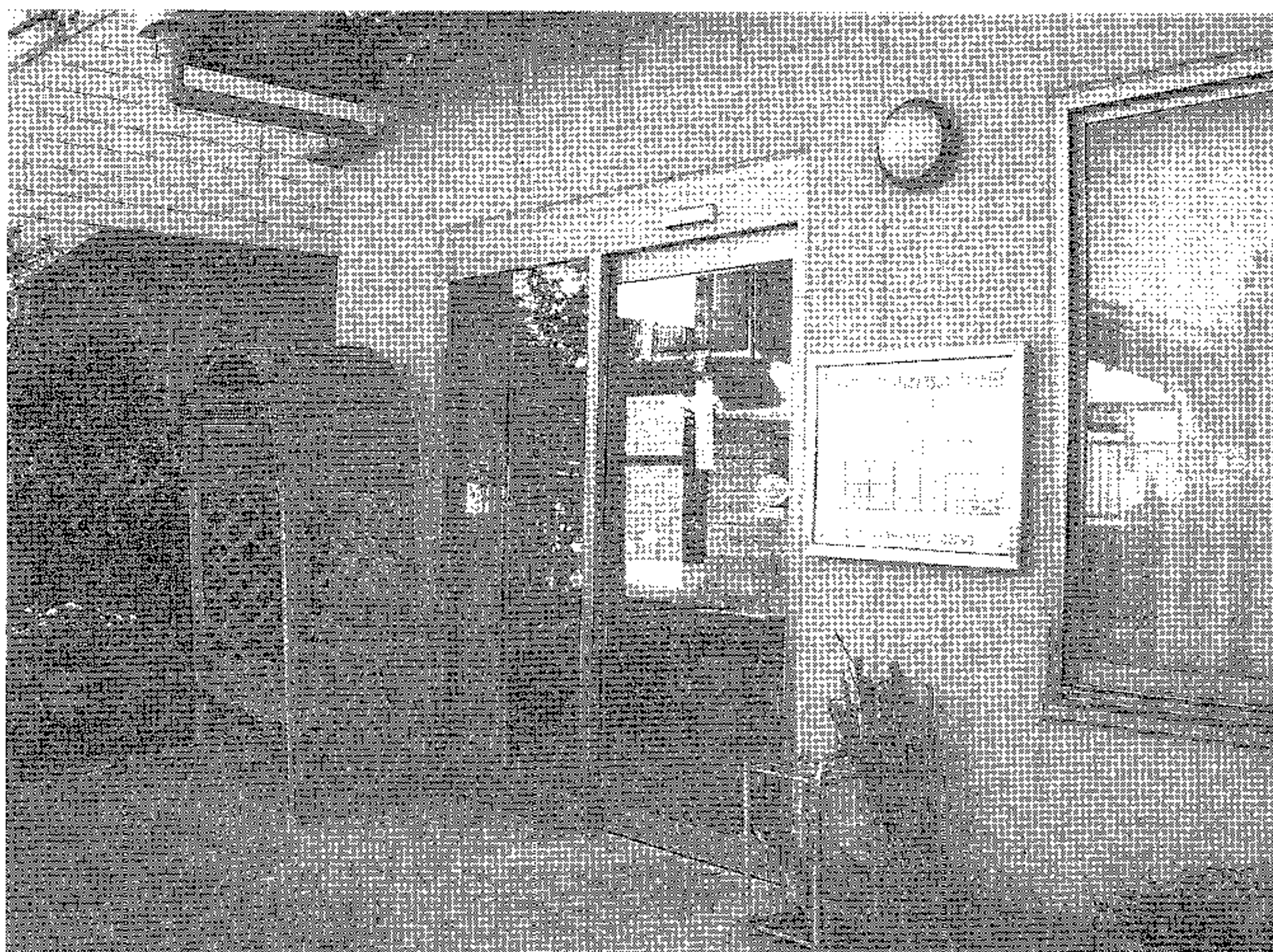


21世紀の 診療所医療の アウトライン

〈第36回〉



「地域で生活する」ことの意味を深くみつめ、 グループホームや精神障害者支援センターを開設 医療法人財団アカシア会・クリニックふれあい早稲田

痴呆性高齢者や疾病を抱える患者が地域社会で暮らし続ける。そのための自立支援が提示されてきたが、その本当の意味を見失ってはいるだろうか。「クリニックふれあい早稲田」の大場院長が提供するグループホームはその答えに近づこうとしている。

痴呆高齢者の病院医療に限界を感じ
住宅街のホームドクターを目指す

「グループホームが老人施設の縮小版になってしまつては意味がありません。グループホームでなければできない環境を提供してあげるべきで、それは地域医療における診療所の役割にも共通していると思います」

クリニックふれあい早稲田の大場敏明院長は、病院医療と診療所医療の根本的な差異を指摘する。入院医療と外来医療、あるいは高度医療と一般医療という機能面での役割分担だけではなく、提供可能なサービスの質と種類が異なるという。そこから機能分化を終えたあとに診療所が進むべき新たなテーマが垣間見える。

東京、千葉、埼玉などでいくつかの病院、診療所勤務を重ねた大場院長は、埼玉県三郷市のいわゆる老人病院の副院長として独立前の一年間を務めた。高齢者医療を担当した大場院長の専門は主に痴呆性高齢者で、その治療における病院医療の限界が少しずつみえてくるようになる。「病院では問題行動などを起こせば、拘束や投薬など抑え込む治療を行うこととなります。また、患者さん一人ひとりの個別性に配慮することも

できず、病院側の管理方法に患者さん側を合わせさせることとなります。そういうやり方が痴呆状態を悪化させたり、症状のなかつた高齢者を痴呆状態にしてしまうこともあるのです。多数の患者さんを相手にするので、病院医療ではやむを得ない面もあるのでしょうか。だから、開業して地域のなかで別のやり方をしてみたいと思つたのです」（大場院長）

勤務していた病院から少し離れ、往診を担当していた患者さんが住んでいた地域に適当な物件がみつかった。三階建ての建物は、一階が倉庫で二階が事務所、三階が居室という造りになっていた。仕切りのない倉庫スペースは、思い通りに診療スペース、動線を構築するには便利だ。事務所や居室スペースも、通所リハなどの大場院長が思い描くプランの実現に向けて応用が利く。平成二二年五月、クリニックふれあい早稲田がオープンした。

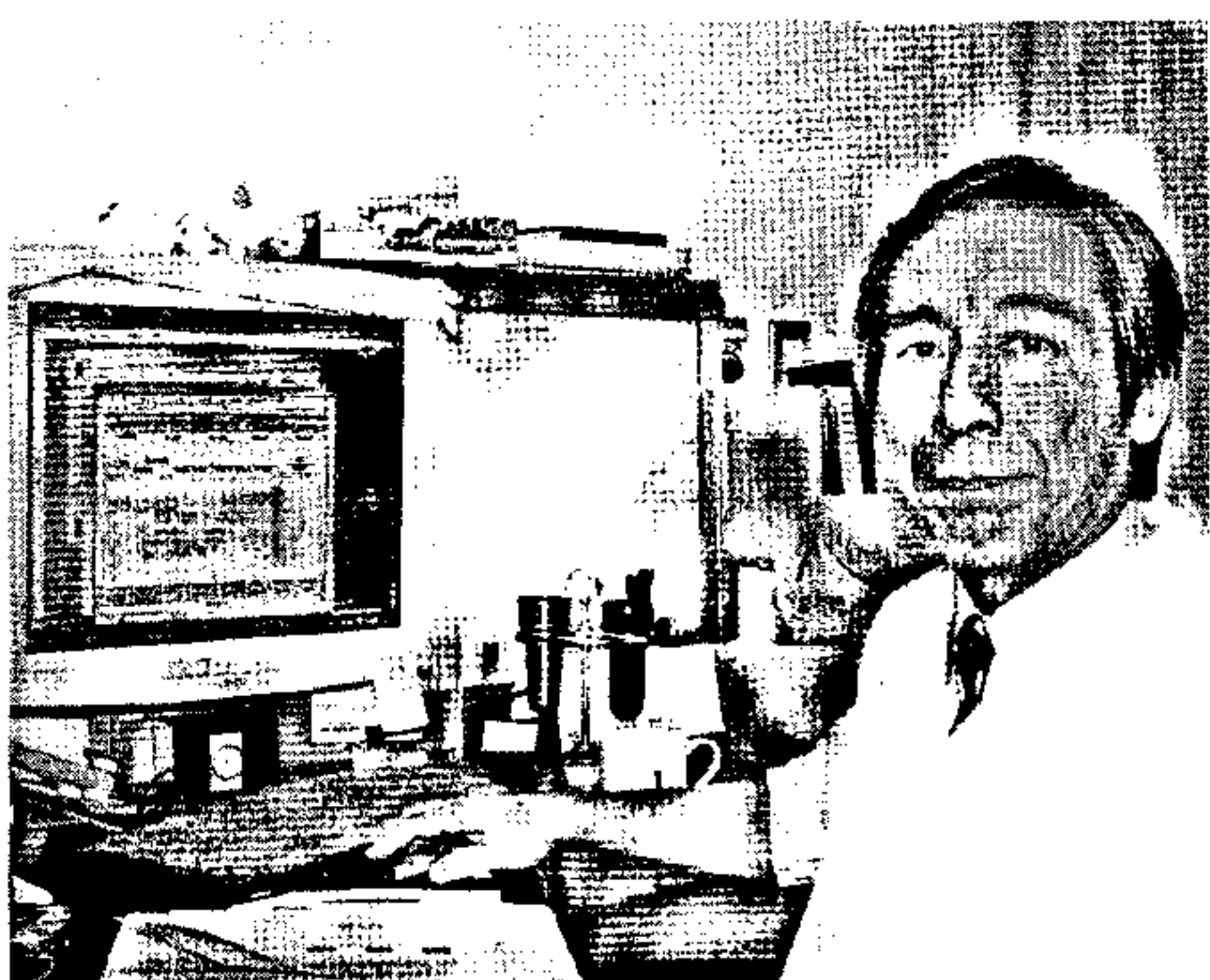
「最初の半年間は、当初の見込みよりもだいぶ患者数が少なくて苦労しました。もともとほかのクリニックが存在していたわけですから、簡単にはかかりつけを変えてはくれないですよ。様子をみるように少しずつ患者さんが定着していき、一年で



木と緑で温かみある空間が演出された待合い



患者や関係者に寄贈された絵画が飾られる



クリニックふれあい早稲田・大場敏明院長

経営的には安定しました」（大場院長）

開業三年目には、妻で小児科の専門医である文江さんが副院長として診察を担うようになった。小児科の需要は小さくなかったため、専門医がいる効果は大きかったというが、それ以上に提供する医療の理想に近づけたことが重要だった。大場院長は開院時に三つの理念を掲げている。

地域の皆さんのホーム・ドクターです

高齢者や障害者に安心なクリニックです

皆さんの健康管理・健康増進を一緒に

高齢者医療に対する問題意識からはじまった開業だったが、大場院長がこだわったのが「ホーム・ドクター」という機能だった。地域住民の生活に密着した医療を提供していきたいという思いがある。そのためにも小児科は不可欠な要素だった。

「また、副院長の診察には『女性科的な視点があります。女性特有の疾患やそれに応じた診療スタイルはこれからますます重要になりますから、その意味でも妻が加わってくれたことでホーム・ドクターとしての機能にも幅が広がりました」（大場院長）

患者と共同で作るふれあいの空間
「私のカルテ」で情報は完全開示

クリニックの内装にもアットホームな温もりを重視した。ヒノキ調の腰壁や観葉植物が立ち並ぶ待合いは、確かに「ほっとする」空間を創出している。診察室や処置室などの掲示サインもあえて木を使用し、温かみのある雰囲気統一した。また、壁

一面に絵画や押し花が飾られている。「患者さんにセミプロの画家や押し花アートをしている方がいまして、

『温かい雰囲気を作りたい』という私たちの考え方に賛同して、提供していただきました」（大場院長）

バリアフリーも徹底されている。

障害者が地域で生活することをサポートしたいという理念もあり、入口から診察室、処置室に至るすべての動線に段差はない。車いす用トイレも限られたスペースに十分な動線を確保し、自動開閉のドアを設置した。診察面での大きな特徴は、すべての患者に配布している「わたしのカルテ」だ。手帳サイズの冊子には、電子カルテで記載されたすべての診療情報や検査結果、画像などが貼り付けられる。

「カルテへの記載は、診察中に患者

さんもモニタでみているわけですから、隠す必要はありません。診療は患者さんが主人公ですから、すべての情報を100%開示するのは当然ですし、それがホーム・ドクターに必要なコミュニケーションだとも思います」（大場院長）

大場院長の追及するホームドクターの機能は、地域全体への貢献にも広がる。開院以来、「ふれあい健康教室」と称して、病気や生活習慣に関する情報提供を続けている。特に高齢者にとっては、日常生活と疾病との関係を的確に把握することが、QOLの向上に重要であるため、興味をもって聴講してもらうことに工夫を凝らす。

「一方的にならないことがポイントですね。たとえば、クイズ形式で行うこともあります。テレビ番組で行っているように、三択でそれぞれの答えを事務スタッフや看護スタッフがもつともらしく解説し、参加者に選んでもらうのです」（大場院長）

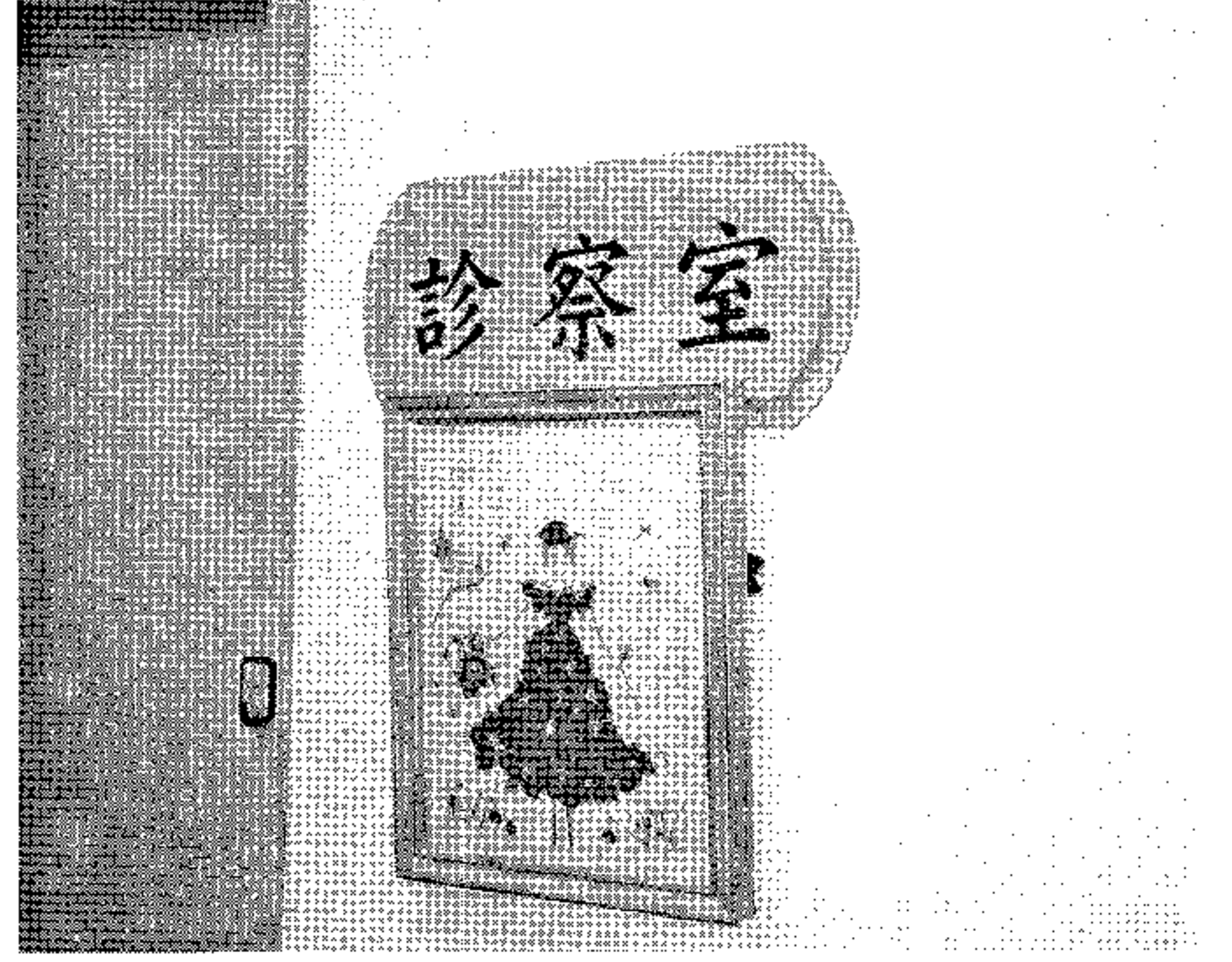
一方で、医療以外の面においても地域密着の姿勢は旺盛だ。二階の事務スペースを地域のカルチャー教室に開放している。第一・三木曜日の午後に関われる活け花教室は、患者の関係者が講師として指導すると



「私のカルテ」にすべての診療情報を貼付



活け花などのカルチャー教室に場を提供



掲示のサインも木材を使用するこだわり

いう。作品は入口に展示され、ホームページでも紹介している。また、琉球舞踊や日本舞踊、水墨画などさまざまなプログラムが定期的に関催されるようになった。

「二階では、来年から通所リハを行う予定ですが、夜間や日曜日は空いていますから、今後も続けてもらいたいと思っています」（大場院長）

「入居者が主役」のグループホーム 痴呆患者専門の通所リハも準備中

昨年、念願だった痴呆性高齢者向けグループホーム「アカシアの家」を開所した。勤務医時代から、往診を行っていたこともあり、高齢者医療における在宅、あるいはそれに近い環境での治療効果に着目していた。しかし、冒頭のコメントにあるようにグループホームが「ミニ老人施設」になりがちな現状に危惧を覚える。

大場院長は、グループホームの立ち上げに当たり、クリニックとは異なる独自の理念を掲げた。その要旨は、

- ・その人らしさ
- ・家庭的な暮らし
- ・地域で生きる
- と集約できる。

「多くのグループホームでは、他の

施設医療・介護と同様に患者さんが『お客さん』になってしまっていないでしょうか？ 決められた食事の時間に呼ばれ、決められたものを食べ、手厚く介護される。生活の主役は入居者であるという視点に立てば、自分でできることをできる限り尊重し、その人らしい生活を支援すべきでしょう。われわれはサポーターでよいのです」（大場院長）

「アカシアの家」では、「何をいつ食べるか」は入居した本人が考え、決める。買い物も自分で行う。スタッフは、それに従い、手伝い、見守る。包丁や火など、一般には痴呆性高齢者に扱わせないものまで本人に委ねる。それはむしろスタッフにとって非常に負担の大きい仕事だ。

「スタッフがすべてやってしまうほうが全然楽ですよ。食事だって、おいしいものをデリバリーしたほうが簡単で、実質的なコストも安上がりでしょう。しかし、それをやってしまえば、当人の生活力をますます後退させてしまうだけなのです」（大場院長）

長年にわたり痴呆性高齢者を診続け、三郷市の介護認定審査会会長を務めてきた経験が、高齢者医療に重要な「地域での生活」「当人の人間性」

をベースとした視点を養った。

その一方で、障害者の地域での生活に対する支援体制も着々と構築している。昨年七月、三階の居宅スペースに、精神障害者地域支援センター「パティオ」を開設した。こちらでは大場院長はサポートに回り、福祉の専門家が運営を主導している。

「精神科の病院医療も、薬漬けや収容体質などいくつもの人権面での矛盾から脱却することが難しいのです。『地域で生活』という方向性が提示されつつも、その受け皿が少なく、支援センターが活動を活発化することが求められています」（大場院長）

次のステップは来年からのスタートを目指す、痴呆患者専門の通所リハだ。介護保険に規定されていないが、スケールメリットの得られないこの分野はサービス供給が不足している。これもまた病院とグループホームに求められる要素の違いに共通する問題なのだろう。だからこそ、診療所医療が担わなければならない分野だともいえる。

大場院長の試みは、一見「高齢者・障害者」を対象に限定しているようにみえるが、地域医療という診療所が担う役割と共通項が多いのは間違いない。